

## 第2期 燕・弥彦地域定住自立圏共生ビジョン 指標の達成状況

第2期 燕・弥彦地域定住自立圏共生ビジョン（計画期間：令和2年度～令和6年度）は、燕市と弥彦村の間で締結した定住自立圏形成協定に基づき、「暮らしの安心の確保」「地域経済の活性化」「圏域内外の交流促進と人材の育成・確保」を圏域づくりの目標として、各種事業を展開してきました。

このたび、計画期間が終了することから、ビジョンに基づく具体的な取組と政策分野のK P I（重要業績成果指標）の達成状況をまとめました。

達成状況の評価は、評価基準に基づき項目ごとに4段階で行い、指標項目14項目中1項目が「△」、2項目が「▼」という結果となりました。

### ◆評価基準表

評価	評価の説明	目標値達成率（%）	項目数 (14項目中)
◎	達成している。	100%以上	9
○	概ね達成されている。	90%以上～100%未満	2
△	未達成だが基準値より改善した。	90%未満	1
▼	達成に向け、改善を要する。	ビジョン策定時の基準値未満	2

## 1 政策分野別取組の実施状況とKPIの評価

### (1) 生活機能の強化に係る政策分野

#### ①医療・福祉（地域医療・福祉の環境整備）

#### ア 病児・病後児保育事業

#### 【ビジョン掲載事業の評価と今後の方向性】

取組事業	期待される効果	事業成果・評価（見込）	次期ビジョン 方向性
病児・病後児保育事業	圏域全体として保護者の就労を支援するとともに、安心して子育てできる環境の充実を図られる。	入園式でチラシを配布するなどの周知により、登録者数は毎年順調に増加している。 新型コロナウイルス感染症により利用者数が落ち込んだ時期があったが、徐々に回復しつつある。 保護者の就労を支援するとともに、安心して子育てできる環境の充実を担っている。	継続

#### 【K P I 達成状況と評価】

KPI（重要実績成果指標）	基準値	R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6見込	目標値 (R6)	達成率 (評価) 見込
病児・病後児保育事業の登録者数	1,585人 (H30)	1,768人	1,991人	2,188人	2,668人	2,950人	2,700人	109.3% (◎)

#### 【総括】

- 医療体制の充実はもちろん、保護者の子育てと就労の両立を支援するための病児・病後児保育事業は、登録者数が大きく伸びており、事業の必要性が表れています。病児保育室「あおぞら」（たかだ小児科医院併設）と、病児・病後児保育ルーム「なでしこぼかぼか」（済生会新潟県中央基幹病院併設）の2拠点体制で、次期ビジョンにおいても継続して実施します。

## イ 新潟大学寄附講座事業

### 【ビジョン掲載事業の評価と今後の方向性】

取組事業	期待される効果	事業成果・評価（見込）	次期ビジョン 方向性
新潟大学寄附講座事業	次世代検診モデルの構築による消化器疾患の早期発見、早期治療対策の研究により、地域の検診体制の強化が図られる。	新潟大学が県立吉田病院の消化器内視鏡センターに医師を派遣することにより、消化器内科医の確保につながり、診察や検診体制の強化が図られた。 引き続き取り組むことで、安定した医療体制を構築していく。	継続

### 【K P I 達成状況と評価】

KPI（重要実績成果指標）	基準値	R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6見込	目標値 (R6)	達成率 (評価) 見込
県立吉田病院 消化器内科医師数	4人 (H30)	5人	5人	4人	4人	5人	4人	125.0% (◎)

### 【総括】

- 圏域住民が安心して住み慣れた地域で暮らしていけるよう、引き続き、新潟大学と連携しながら、安定した地域医療提供体制の構築に努めます。加えて、次期ビジョンには、圏域医療機関の医師として地域医療を担おうとする医学生に修学資金を貸与する事業を新たに加え、医療体制のさらなる充実を目指します。

## ウ 看護職員修学資金貸付事業

## エ 介護人材定着促進事業

### 【ビジョン掲載事業の評価と今後の方向性】

取組事業	期待される効果	事業成果・評価（見込）	次期ビジョン 方向性
看護職員修学資金貸付事業	県央医療圏における看護職員の確保及び人材の地元定着が図られ、圏域の医療体制の維持・充実につながる。	令和3年度から延べ43名に修学資金の貸付を行った。このうち、31名が修学継続中、11名が卒業となっている（残る1名は就学途中で辞退）。 卒業した11名のうち8名が、指定医療機関（県立吉田病院、県央基幹病院）に就職しており、医療体制の充実につながっている。	継続
介護人材定着促進事業	介護職員が資格取得や表彰を受けることで、自信とやりがいを持てる職場環境が形成され、離職予防や定着促進につながり、圏域における高齢者が介護サービスを安定的に利用できる。	介護資格の取得経費等の助成申請は目標を達成しているものの、徐々に対象が新規採用者等に限られ、事業開始当初に比べると申請者数が減少傾向となっている。高齢者数は今後も増加していくため、介護職員のさらなる定着が必要である。介護職員等表彰を継続することで、「希望・感動・感謝」に満ちた職場であることを伝え、引き続き人材確保・定着に努める。	継続

### 【K P I 達成状況と評価】

KPI（重要実績成果指標）	基準値	R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6見込	目標値 (R6)	達成率 (評価) 見込
看護職員修学資金 貸与者数（延べ人数累計）	13人 (R3)	-	13人	23人	34人	43人	32人	134.4% (◎)
介護人材育成事業補助金 助成者数（延べ人数累計）	147人 (H30)	220人	260人	297人	323人	358人	290人	123.4% (◎)

### 【総括】

- 団塊の世代が後期高齢者となる令和7年以降、独居高齢者や老々介護の更なる増加が見込まれることから、今後も医療と介護の連携強化が求められます。引き続き、医療や介護を支える人材の確保および定着に努めるとともに、圏域住民が高齢者を理解し、支え合う地域となっていくために、次期ビジョンでは、「高齢者見守り搜索」に係る事業の連携を検討します。

## ②産業振興（広域観光の促進）

【ビジョン掲載事業の評価と今後の方向性】

取組事業	期待される効果	事業成果・評価（見込）	次期ビジョン 方向性
<b>観光エリア魅力アップ促進事業</b>			
首都圏等観光PR事業	マスコミや旅行関係者に圏域の観光資源を直接PRすることで、新たな旅行商品が造成され、首都圏からの誘客増加や新たな客層の発掘が図られる。	首都圏等商談会や観光PRイベントへの参加、インバウンドプロモーションの実施、メディア等を活用した情報発信を行ったことで、圏域観光入込客数の増加につながった。	継続
産業観光ナビゲート事業	圏域を訪れる観光客の滞在時間の増加やリピーター率の増加などにより、地域住民と観光客の交流の場の拡大が図られる。	産業の魅力を発信するため、産業観光ナビゲーターによる修学旅行や工場見学等のコース提案やアテンドを行い、観光客には圏域に興味を持って滞在・周遊してもらうことができた。これにより、地域住民と観光客の交流の場の拡大につながったと捉えている。	継続
観光協会運営支援事業	圏域の観光の魅力を安定的に情報発信することで、観光客が圏域を訪れる契機となり、リピーター率が増加するなど、交流・応援人口の拡大が図られる。	燕市・弥彦村の観光協会が各々の魅力やイベントを積極的に情報発信したことで、圏域観光入込客数の増加および交流応援人口の拡大につながった。	継続
2次交通整備事業	圏域を訪れる観光客の滞在時間の増加やリピーター率の増加などにより、地域住民と観光客の交流の場の拡大が図られる。	2次交通として、燕市・弥彦村を巡る観光タクシーを運行した。利用者数はコロナ禍による落ち込みから徐々に回復しているもの、コロナ禍前の水準には届いていない。ニーズを的確に捉え、改善しながら事業展開していく。	継続
観光複合施設運営管理事業	施設の魅力を向上させることで観光客が圏域を訪れる契機となり、交流・応援人口の拡大が図られる。	燕市の「道の駅国上」および弥彦村の「おもてなし広場」で、地場製品の販売や積極的な商品開発、観光コンテンツの充実化を図ったことにより、観光客が増加し、交流・応援人口の拡大を図ることができた。	継続
情報発信ツール活用事業	圏域の魅力を情報発信することで、観光客が圏域を訪れる契機となり、交流・応援人口の拡大が図られる。	観光ウェブサイトの公開や、観光マップを作成して県内外各所に配架したことで、広く周知を図ることができた。この誘客促進により、交流・応援人口の拡大につながった。	継続

【K P I 達成状況と評価】

KPI（重要実績成果指標）	基準値	R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6見込	目標値（R6）	達成率（評価）見込
燕市及び弥彦村の観光入込客数(暦年)	3,332,034人 (H30)	2,465,177人	2,600,723人	3,159,833人	3,634,548人	3,690,000人	3,752,000人	98.3% (○)
2次交通整備事業の利用人数	305人 (H30)	65人	49人	110人	87人	100人	400人	25.0% (▼)
道の駅国上・おもてなし広場来館者数	367,929人 (H30)	266,224人	271,150人	445,295人	780,683人	832,000人	404,000人	205.9% (◎)
弥彦温泉における宿泊数(暦年)	88,193泊 (H30)	48,621泊	54,930泊	60,611泊	66,590泊	60,000泊	91,000泊	65.9% (▼)
産業観光視察受入人数(燕市観光協会経由分)	2,102人 (H30)	5,194人	9,327人	10,402人	7,510人	7,700人	3,500人	220.0% (◎)

【総括】

- 観光エリア魅力アップ促進事業では、6つの細事業の複合的効果から観光客入込数、道の駅国上・おもてなし広場来館者数および産業観光視察受入人数は、コロナ禍前を上回る実績となりました。一方、2次交通利用人数および弥彦温泉の宿泊数は、目標値を下回る見込みではあるものの、コロナウイルス感染症の影響による落ち込みから、回復傾向にあることがうかがえます。以上のことをふまえ、次期ビジョンでは、現行の細事業を継続し、順調に成果を上げているK P Iについては目標値を上方修正して設定します。また、本ビジョンで目標達成に至らなかった目標については、今後の連携事業より成果を改善させることを念頭に、目標値を精査します。

## (2) 結びつきやネットワークの強化に係る政策分野

### ①地域公共交通（地域公共交通ネットワークの構築）

【ビジョン掲載事業の評価と今後の方向性】

取組事業	期待される効果	事業成果・評価（見込）	次期ビジョン方向性
コミュニティバス運行事業	生活交通路線の維持拡充により、高齢者や学生など自動車を運転できない住民の通院や通学など生活に必要な交通手段が確保され、圏域住民の利便性が図られる。	<p>運行を維持することで、利用者の生活に必要な交通手段が継続的に確保され、圏域内の利便性は保たれている。令和6年3月には、新たに開院した県央基幹病院へのアクセスを可能とするため、バス路線を再編した。一方で、新型コロナウイルスの影響により、一時的に利用者数が減少したものの、一定程度回復はしている。しかしながら、コロナ前の利用者数まで戻っていない状況がみられる。</p> <p>以上のことから、引き続き、圏域住民の交通利便性の維持・向上に努めていくとともに、利用者数の回復につながるサービスの提供を検討する必要がある。</p>	継続
予約制乗合ワゴン車運行事業			継続

【K P I 達成状況】

KPI（重要実績成果指標）	基準値	R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6見込	目標値（R6）	達成率（評価）見込み
コミュニティバスの年間利用者数	53,404人（H30）	37,375人	41,791人	45,954人	47,578人	51,976人	59,200人	87.8%（△）
予約制乗合ワゴン車の年間利用者数	38,652人（H30）	33,798人	34,598人	35,431人	35,531人	35,162人	38,800人	90.6%（○）

【総括】

- コミュニティバス運行事業、および予約制乗合ワゴン車運行事業の年間利用者数は、毎年度安定した利用実績があります。人口減少が進展するなか、圏域住民の生活に必要な交通手段として、燕・弥彦地域公共交通網形成計画に基づく市域・村域を超えた地域公共交通ネットワークを維持し、効果的な運行を目指します。なお、次期ビジョンでは、公共交通網形成計画に基づく運行の効果をより具体的に測る指標として、各事業における1日あたりの利用者数を設定することを検討します。



### (3) 圏域マネジメント能力の強化に係る政策分野

#### ① 人材育成（圏域職員の育成）

##### 【ビジョン掲載事業の評価と今後の方向性】

取組事業	期待される効果	事業成果・評価（見込）	次期ビジョン 方向性
職員合同研修事業	職員の資質、能力向上を図るとともに、職員間のネットワーク構築と連携強化が図られる。	実務データ分析研修や接遇力向上研修などを中心に計画的に合同研修を実施しており、職員の資質向上と圏域内職員の交流に寄与している。	継続

##### 【K P I 達成状況】

KPI（重要実績成果指標）	基準値	R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6見込	目標値 (R6)	達成率 (評価) 見込
来庁者満足度	83.5% (H30)	84.6%	84.5%	90.0%	92.2%	92.2% <small>※R6.9月末時点で来庁者アンケート未実施のため、前年度実績を見込としている。</small>	85.0%	108.5% (◎)
合同研修メニュー数	4メニュー (H30)	4メニュー	6メニュー	6メニュー	5メニュー	6メニュー	6メニュー	100.0% (◎)

##### 【総括】

- 職員合同研修事業による職員の対応力の強化が、来庁者満足度に表れています。これを維持・向上させていくためにも、引き続き、職員の育成に努めます。なお、来庁者アンケートについては、回答者の多くが高齢者で、年代に偏りがあること等が課題となっています。このため、次期ビジョンにおいては、K P I（重要実績成果指標）の再設定を検討します。



## ②人材育成（外部人材の確保）

【ビジョン掲載事業の評価と今後の方向性】

取組事業	期待される効果	事業成果・評価	次期ビジョン 方向性
外部人材活用事業	専門的な知識等を有する人材を積極的に活用することにより、地域の活性化が図られる。	民間企業や他の地方公共団体等で培った専門的知識や経験を有する外部人材を任期を定めて活用し、複雑化・高度化する行政課題に対応している。  ※主な活用分野 危機管理、広報企画、情報政策、産業誘致、職員採用、農業、図書館業務	継続

【K P I 達成状況】

KPI（重要実績成果指標）	基準値	R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6見込	目標値 (R6)	達成率 (評価) 見込
外部人材職員の招へい数 (期間中の累計)	5人 (H30)	5人	7人	9人	12人	13人	6人	216.7% (◎)

【総括】

- 複雑化・高度化する行政課題に対応していくための外部人材の登用は、受入を実施した分野の知見・ノウハウを活用できたことに加えて、組織の活性化や内部職員の人材育成にも効果を発揮しています。このため、今後も継続して専門人材の確保に努めます。